



無料上映会開催のお知らせ

日本の精神医学・精神医療の草分けといわれる呉秀三のドキュメンタリー映画の無料上映会を開催します。

呉秀三は、松沢病院の院長で、当時、当たり前だった手枷、足枷を禁止し、看護する職員の資質を高めて、精神科病院を、精神障害者を閉じ込め隔離する施設から、治療する施設へと変えようとなりました。

精神医療、福祉に関わる方だけでなく全ての方に是非見て頂きたい映画です。

上映日程・場所

7/22 (月) 17:20~19:00※	稲城台病院 新館1階OT室	今井監督とトークイベントあり
7/23 (火) 17:20~18:30	稲城台病院 新館1階OT室	
7/26 (金) 17:20~19:00	創造農園 付属棟1階	松沢病院齋藤院長とトークイベントあり
7/27 (土) 10:30~12:10	創造農園 付属棟1階	五叉路会中澤先生とトークイベントあり

※7/22は19:15、19:30に若葉台・はるひ野ルートの臨時バスを出します

映画の紹介

今から100年前 精神病に有効な治療法が無かった時代
座敷牢に幽閉された精神病者を救おうと奔走した一人の男がいた

呉秀三は予言者？

呉秀三が、私宅監置（座敷牢）の実態調査を世に出して、今年には100年の節目にあたる。呉は、調査報告書の中で、精神障害者が置かれている実態を指して、「この国に生まれた不幸」「この国目下の急務」と言い放った。

天皇制を絶対とする旧憲法下のこの時代に、国にもの申すというのは、それなりの覚悟がいったはずである。並々ならない信念と正義感を垣間見る思いがする。

呉の業績と調査報告書が発するメッセージは、表現こそ古い言い回しだが、内容は斬新である。まるで予言者である。隔離処遇にしる、身体拘束にしる、呉が、当時問題にしたテーマの基本は、現代の精神医療の実態にそのままあてはまる。

このドキュメンタリー映画が、日本の精神医療の「夜明け」をたぐり寄せる上でいささかでも貢献できればと思う。まずは観てほしい。

そして、地域で、学園で、そして精神科病院などで自主上映会を企画していただきたい。

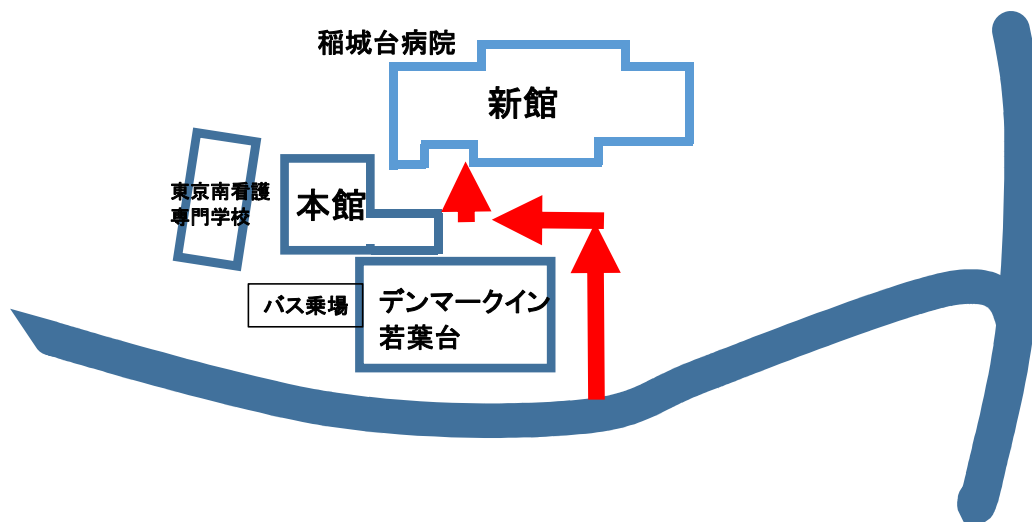
きょうされん専務理事 呉記録映画企画責任者
藤井 克徳（ふじい かつのり）

（きょうされんホームページより引用）

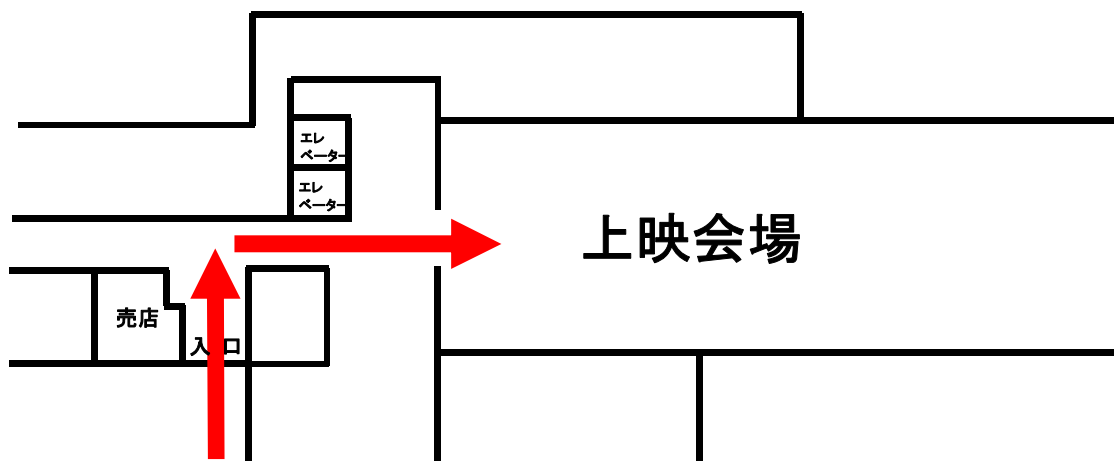
問い合わせ先 **稲城台病院 事務局 齋藤 042-331-5531**

上映会会場: 稲城台病院 新館 作業療法室

・デンマークイン若葉台手前から入り、正面の建物の左側にある入口があります。
入口を入ったら右手正面が上映会会場です。



新館 拡大図



創造印刷（創造農園） 交通のご案内

〒182-0005 調布市東つつじヶ丘 2-29-1

京王線 つつじヶ丘駅 南口より徒歩3分

